

客観的な児童生徒理解の方法

Q3 学校で活用できる心理テストには、どのようなものがありますか？

児童生徒を理解するには、一般的には「記録」をとり続け、その変容に注意するという方法が最もよく使われているかと思います。この場合、言動・態度・外見などの目に見える状態に注目し、その上で児童生徒の内面的世界を推察しながら、指導の方法を考えていくこととなります。しかし、この方法は、多分に教師の経験則と主観によって児童生徒の内面世界を描いてしまうこともあり、児童生徒に対する偏った見方を生み出す危険性もあるといえます。

そこで、科学的な実証に基づいて開発された「心理テスト」を組み合わせることで客観的な理解を進めることが必要になってきます。

教師の豊かな経験と客観的な心理テストが組み合わせられてこそ、児童生徒理解は一層深まります。

なお、心理テストの利用については、テストの意味や目的及び結果の伝え方は慎重にすべきであり、児童生徒のみならず保護者も含めて、敏感にさせたり無用な心配をさせたりしないよう、十分な配慮を必要とします。

また、発達段階等によっては実施できないものもあります。さらに単一のものだけで判断することも避けなければなりません。心理テストの利用価値を高めるには、他のテストとの相互関係を見ることがたいへん重要です。

このような慎重な配慮の上で、複数の眼で、多方面から心理テストの結果を分析し、教育相談の方針を決めることが大切です。

代表的な心理テスト

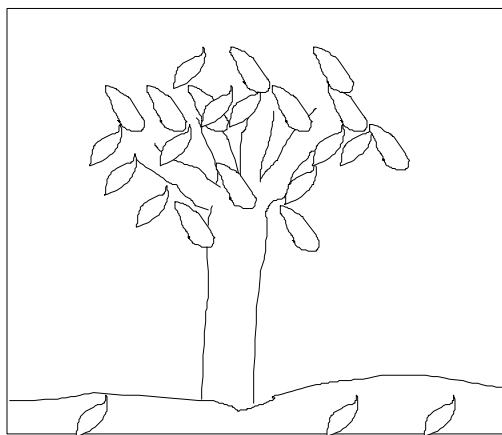
バウムテスト

【方法及びねらい】 2B～4Bの鉛筆を準備し、A4の画用紙に「1本の（実のなる）木を描いてください。」と指示し、描かれた木の全体的な印象や、位置、大きさ、根、枝、幹、葉、実などの様子から、児童生徒の状態を知る。

【適用年齢】 3歳以上

【所要時間】 約3～20分程度

※ 学級不適應の児童が描いたバウムの例



文章完成テスト

【方法及びねらい】 「私の母は」「私は小さい頃」などと不完全な文を準備し、児童生徒が後を続けて文章を完成させる。できあがった文の内容から児童生徒の家庭の様子や嗜好などを知る。

【適用年齢】 小学生～成人

【所要時間】 40～50分程度

【例】

- ・子供の頃、私は○○○・・・・。
- ・家の人には私を○○○・・・・。
- ・私はよく人から○○○・・・・。
- ・私が思い出すのは○○○・・・・。
- ・私が知りたいことは○○○・・・・。
- ・私が努力しているのは○○○・・・・。

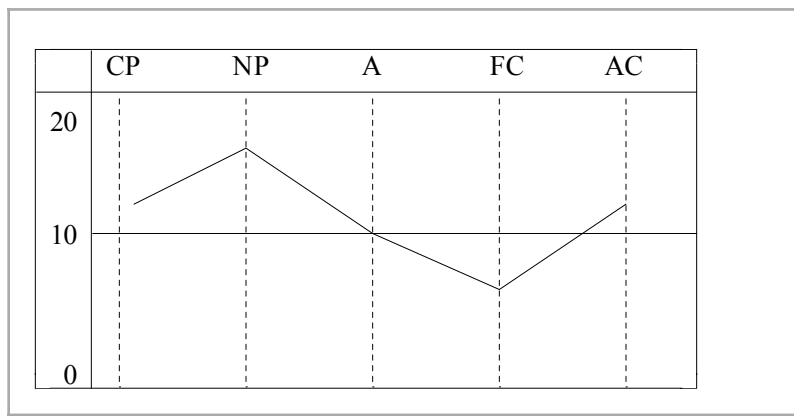
エゴグラム

【方法及びねらい】 質問紙に答えることにより、標準化された尺度に基づいて数値化・グラフ化し、CP（厳格さ，理想），NP（思いやり，寛容性），A（知性，理性），FC（本能的，感覚的），AC（順応性，妥協）の5つの自我の状態を知る。

【適用年齢】 小学生以上

【所用時間】 10分程度

【例】



※ 詳細は「Ⅲ教育相談の技法の活用『児童生徒の自己理解を促すとともに心の状態を把握できる技法には、どのようなものがありますか?』」に記載しています。